香美市埋蔵文化財報告書第２集

高知県香美市

原南遺跡発掘調査報告書

－市立保育園建設に伴う発掘調査－

2009年3月

香　美　市　教　育　委　員　会

香美市埋蔵文化財報告書第２集

高知県香美市

原南遺跡発掘調査報告書

－市立保育園建設に伴う発掘調査－

2009年３月

香　美　市　教　育　委　員　会

序

香美市は、四万十川、仁淀川と並ぶ県下三大一級河川のひとつである物部川の悠久の流れに抱かれ、歴史と文化を培ってきました。物部川、国分川、吉野川の源流域から高知平野の北東部に位置し、市の約９割を占める森林の多くは、剣山特定公園、奥物部県立自然公園、龍河洞県立自然公園に指定されています。

日本でも有数の石灰岩の鍾乳洞である龍河洞をはじめ、江戸時代に建造された大規模な農業用水取入堰跡である山田堰など、数多くの文化財があります。また、国指定無形民俗文化財であるいざなぎ流御祈祷、土佐打刃物や高知県東部特有の染物であるフラフの生産などのすばらしい歴史と文化を受け継ぎ次代へ伝承することは、現代の我々に課せられた責務であると考えます。

今回調査を実施した明治地区には、高柳土居城跡をはじめとする中世の遺跡や弥生時代の集落跡である原遺跡があります。このたび報告書として刊行することになりました本書が、今後の研究や文化財保護思想の普及の助けとなり、先人の残した歴史遺産を将来守り伝えていくきっかけとなれば幸いです。

最後になりましたが、地元関係者の方々、発掘調査から整理作業に至るまでにご協力いただきました皆様、高知県文化財団埋蔵文化財センター、高知県教育委員会に対し、厚くお礼申しあげます。

平成２１年３月

香美市教育委員会
教育長　明石　俊彦

例　　言

1．本書は、香美市立保育園建設に伴う事前の発掘調査についての報告書である。

2．遺跡は、高知県香美市土佐山田町字赤シサイに所在する。

3．調査期間

試掘確認調査は平成19年12月20日から12月28日、発掘調査は平成20年1月8日から2月18日まで実施した。

4．調査体制

平成19年度	香美市教育委員会	教育長	原	初惠
		教育次長	福島	勇二
		生涯学習課長	几内	一秀
平成20年度	香美市教育委員会	教育長	明石	俊彦
		教育次長	鍵山	仁志
		生涯学習課長	几内	一秀

5．調査対象面積　5,600㎡　発掘調査面積　652㎡

うち、試掘確認調査面積は72㎡、本発掘調査面積は580㎡である。

6．本書の執筆は小林麻由（香美市教育委員会生涯学習課）が行なった。

7．遺構については、SK（土坑）、SX（性格不明遺構）、SR（自然流路）、P（柱穴）で標示した。

8．試掘確認調査及び発掘調査にあたっては、幼保支援課長山﨑泰広、幼保支援係長和田雅充及び地元地区の方々や関係者より全面的な協力を得た。記して謝意を表したい。

9．発掘作業及び整理作業には下記の方々に従事していただいた。記して謝意を表します。

発掘調査：尾崎英子、公文章仁、竹崎寛将、竹崎芳子、竹村君子、谷田雅人、寺石八重子、中沢英子、山口学、和田喬、和田照栄

重　　機：石丸建材店

測　　量：ライン測量設計会社

整理作業：井澤久未、高橋加奈、竹崎寛将

10．出土遺物については、「０７－１-YHM」（試掘確認調査）及び「０７－２-YHM」（発掘調査）と注記し、関連図面・写真とともに香美市教育委員会で保管している。

本　文　目　次

第Ⅰ章　調査に至る経過・・・

図 版 目 次

PL1　Ⅰ区　調査前風景
　　Ⅰ区　遺物出土状態
PL2　Ⅰ区　遺物出土状態
　　Ⅰ区　作業風景
PL3　Ⅰ区　遺構検出状態
　　Ⅰ区　遺構完掘状態
PL4　Ⅰ区　P78遺物出土状態
　　Ⅱ区　SK9　遺物出土状態
PL5　Ⅱ区　遺物出土状態
　　Ⅱ区　P138 土層断面
PL6　Ⅱ区　遺構検出状態
　　Ⅱ区　遺構完掘状態
PL7　Ⅱ区　SD1 土層断面
　　Ⅱ区　SD1 遺構検出状態
PL8　出土遺物
PL9　出土遺物
PL10　出土遺物
PL11　出土遺物
PL12　出土遺物

表 目 次

Tab.1　原南遺跡周辺遺跡名一覧
Tab.2　遺物観察表１（NO1 ～ 35）
Tab.3　遺物観察表２（NO36 ～ 58）
Tab.4　遺物観察表３（NO59 ～ 72）

Ⅰ章　調査に至る経過

原南遺跡は、高知県立山田養護学校の南に位置し、平成元年度の遺跡分布調査により登録された弥生時代から近世の遺跡である。

県立山田養護学校は、昭和55年の高等部校舎建設のさいに遺物が出土したことにより、緊急発掘調査を実施した結果、遺構が認められたため学校敷地内のほぼ全域を原遺跡と命名している。

今回、調査を実施する契機となったのは、香美市立保育園建設である。

「香美市次世代育成支援対策行動計画」の推進に伴い、香美市全体の子育て世代が誰でも利用できる保育サービスについて示した「香美市すこやか子育てプラン」が平成18年５月に策定された。保育園への入所待ち児童の増加や保育時間の延長など多様なサービスが求められるなか、市内に複数存在する保育園施設の多くについて老朽化が進行していることをうけて、保育サービスの充実を図るとともにまちづくりの主要施策である少子化対策として、プランに沿って計画が進行した。

子育て支援センターの設置や、郊外に児童定員200人以内の平屋建てで送迎時に駐車スペースを十分確保できる場所を条件として検討した結果、当該地が条件を満たす場所として選ばれたため、周知の埋蔵文化財包蔵地である当該地において事前の発掘調査を実施した。

平成19年12月20日から28日にかけて試掘確認調査を行い、遺物包含層及び遺構等の有無を調査した結果それらを確認した。

保育園建設の担当課と協議を行った結果、平成20年2月末までの条件で、発掘調査を平成20年１月８日から２月18日まで行った。

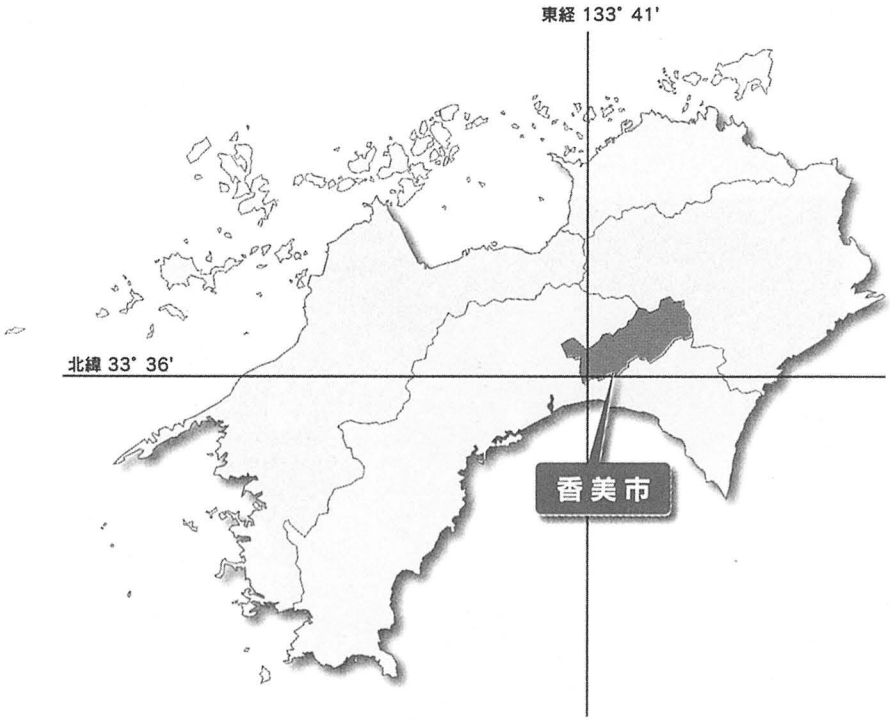


Fig. 1　香美市位置図

第Ⅱ章　周辺の地理的・歴史的環境

第１節　地理的環境

香美市は、平成18年３月に土佐山田町・香北町・物部村の三町村が合併してできた市である。

高知県の東北部に位置し、四国山地南嶺から高知平野に至る物部川上中流域を占めている。南国市、香南市、安芸市、大豊町、本山町、徳島県三好市、那賀町に接し、県都高知市からも近い位置にある。

剣山を源とする物部川によって形成された本県最大の扇状地である香長平野の北端部にあり、市域の約９割を森林地帯が占める。

面積は538.22㎞だが、大半が急峻な地形を覆う森林となっており可住地面積は平野部を中心に１割強にとどまる。人口は28,687人（平成21年２月現在）を有する。

地質の特徴としては、西南日本外帯の秩父帯に位置するということがあげられる。四国の秩父帯は、大樽－杉田構造線、神原谷－岩改構造線によって三カ所に分類される。香美市は地域の過半部、三カ所のうち最北端にあたる秩父帯北帯に位置し、その南部は中帯及び南帯に位置する。

また、国の天然記念物及び史跡として指定をうけている龍河洞は、虚空蔵山層群（三畳系）の石灰岩体に発達しており、日本の代表的な洞穴生物が生息する鍾乳洞として有名である。

天狗岳不整合は、市西部の甫喜ガ峰（標高611m）に端を発し浦戸湾に注ぐ新改川（国分川）右岸の新改地区でみられ、県天然記念物に指定されている。休場層（古生代二畳紀）チャートの上に領石層（中生代白亜紀）の基底礫岩が堆積しており、休場層の堆積後9,000年間陸上にあって再び沈降して、そこに領石層が堆積し不整合を形成した。

全体の地層が北に70～80度の傾斜を示して逆転しており、領石層の上に休場層が堆積しているかのように見えるのが特徴である。

発掘体験風景

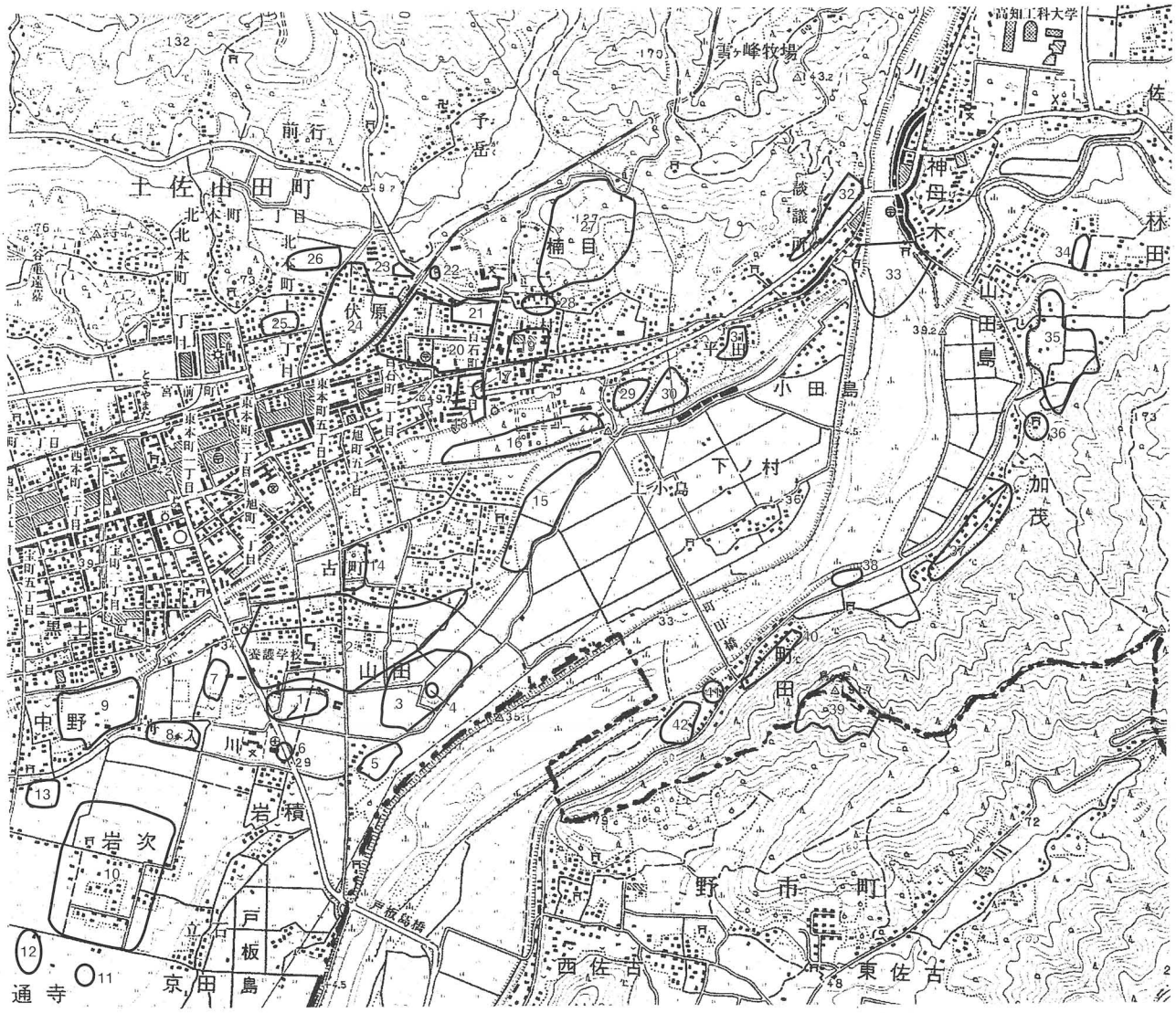


Fig. 2　周辺の遺跡分布図（S ＝ 1 ／ 25000）

1	原南遺跡	弥生～近世	15	稲荷前遺跡	弥生～近世	29	大西土居遺跡	弥生
2	原遺跡	弥生～近世	16	楠目遺跡	弥生～近世	30	前ノ芝遺跡	弥生～平安
3	高柳遺跡	弥生～中世	17	伏原大塚古墳	古墳	31	郷本遺跡	弥生・古墳
4	高柳土居城跡	中世	18	大塚遺跡	弥生～近世	32	宮田遺跡	弥生～近世
5	一ツ橋遺跡	古墳～平安	19	ひびのき遺跡	弥生・古墳	33	山田堰	近世
6	時久遺跡	古墳	20	ひびのきサウジ遺跡	弥生～近世	34	シタノヂ遺跡	古墳～平安
7	クロアイ遺跡	弥生～中世	21	ひびのき岡ノ神母遺跡	弥生～中世	35	林田遺跡	弥生～中世
8	野々下遺跡	古墳～平安	22	小倉山古墳	古墳	36	日吉神社遺跡	平安
9	下タ野遺跡	古墳～中世	23	鏡野学園古墳	古墳	37	加茂遺跡	古墳～中世
10	大領遺跡	古墳～中世	24	伏原遺跡	弥生～平安	38	加茂神社西遺跡	古墳～中世
11	ヤイタ遺跡	古墳～中世	25	長谷川丸遺跡	古墳～平安	39	烏ヶ森城跡	中世
12	下門田遺跡	古墳～中世	26	メウカイ遺跡	弥生～中世	40	ガニウド遺跡	古墳～中世
13	東時光石遺跡	古墳	27	楠目城跡	中世	41	町田遺跡	弥生～中世
14	古町西遺跡	弥生～平安	28	ひびのき大河内遺跡	弥生～近世	42	町田堰東遺跡	縄文～中世

Tab 1 . 原南遺跡周辺遺跡名一覧

第２節　歴史的環境

縄文時代は、県西部に遺跡が多く分布する。仁淀川水系の不動ガ岩屋洞穴遺跡（佐川町）や四万十川水系に属する十川駄馬崎遺跡、木屋ガ内遺跡（四万十町）などで早期押型文土器、厚手無文土器が出土している。

近年では、香長平野を流れる物部川流域左岸の刈谷我野遺跡より、早期に属する遺構が見つかった。縄文土器片が多く出土している。

また、吉野川上流にあたる穴内川流域の飼古屋岩陰遺跡、新改川流域の開キ丸遺跡でも早期押型文土器及び無文厚手土器の出土が確認された。

同じく吉野川水系の縄文時代の遺跡として知られているのは奥谷南遺跡（南国市）である。中期に属する堅果類貯蔵穴が８基検出されている。

物部川流域においては、早期の刈谷我野遺跡が全国的に知られている。河岸段丘上に位置し、土坑及び植物質加工石器が集中して検出されたことから、集落遺跡と考えられている。

前期初頭土器、晩期前半土器及び貯蔵用ピットが検出された美良布遺跡では、竪穴住居址は検出できず、掘立柱建物が存在した可能性が指摘されている。

弥生時代は、物部川下流域に位置する田村遺跡群（南国市）に代表される前期の集落が県内各地に出現し始めたのを契機として、前期末頃より多くの弥生集落が出現する。香美市において弥生時代の遺跡が確認されたのは、高地性集落及び洞穴遺跡が出現する中期に至ってからである。

後者に属する龍河洞洞穴遺跡は、鍾乳洞の洞穴内に炉跡を伴う居住スペースが確認されている。

後期にさしかかると、遺跡数は劇的に増加する。ひびのき式土器の標準遺跡となったひびのき遺跡では、弥生後期中葉（ひびのきⅠ式土器）から弥生後期末（ひびのきⅡ式土器）の遺物が出土し、ベッド状遺構を伴う隅丸方形の竪穴住居址が検出された。

原南遺跡は弥生時代中期後半から近世に至る複合遺跡である。弥生時代中期としては初の出土例となった高床倉庫跡が確認された。

また、ひびのきⅡ式土器が多く出土しているひびのきサウジ遺跡では、竪穴住居址と甕棺墓９基が検出された。弥生時代後期の集落と墓制を研究するうえで貴重な資料である。なかでも、素掘りの井戸であるＳＥ１から出土した一括資料は当地域における古代の土器編年を考えるうえで貴重なものとなった。ＳＴ８では讃岐からの搬入品を含め良好な資料が多数出土している。

弥生時代後期末から古墳時代初頭と位置づけられる伏原遺跡では、都市計画道路の延長に伴う発掘調査が近年進んでいる。古代、近世以降にわたる複合遺跡であることが発掘調査によって確認された。

物部川下流の左岸に位置する下ノ坪遺跡（香南市）でも後期に属する竪穴住居址が検出されており、出土遺物には讃岐からの搬入品もみられた。また、古墳時代後期の住居址と住居に付随するカマドが報告されている。

古墳時代には一辺34mの大型古墳で、全国にも類例がない円筒埴輪が周溝から出土している伏原大塚古墳をはじめとして、須江ツカアナ古墳など平地に古墳が築造されている例も見受けられる。

古代になると、新改・植・須江地区の山麓部に窯跡が多く造られた。現在40数カ所確認されており、比江廃寺跡（南国市）の瓦を焼成したタンガン遺跡や土佐国分寺の平瓦を焼成した東谷遺跡が存在する。

また、「大領」の地名が残る物部川右岸の大領遺跡は、古代香美郡の官衙推定地と考えられている。

中世は、平地の城館跡として知られている高柳土居跡は現在もなお土塁跡を残しており、発掘調査では内堀及び外堀、石列などが検出された。隣接する高柳遺跡からは15世紀後半から16世紀中頃の柱穴等が検出されており、在地豪族の城館として成立した後、長宗我部氏による地方統一の流れのなかで土居屋敷へと行こうしていったことが明確になっている。

また、戦国大名山田氏が楠目城を拠点として領主制支配を展開するが、天文年間には長宗我部氏に攻められて滅亡した。平成９年度に確認調査を実施し柱穴を伴う曲輪の存在が確認されている。

《参考文献》

『土佐山田町史』（1979）
森田尚宏『飼古屋岩陰遺跡』（1983）高知県教育委員会
小林麻由『開キ丸遺跡』（2002）土佐山田町教育委員会
松村信博・山本純代『奥谷南遺跡Ⅰ』（1999）高知県文化財団埋蔵文化財センター
松本安紀彦『刈谷我野遺跡Ⅱ』（2007）香美市教育委員会
出原恵三『美良布遺跡』（1991）香北町教育委員会
岡本健児他『龍河洞』（1974）龍河洞保存会
岡本健児・広田典夫『ひびのき遺跡』（1977）土佐山田町教育委員会
出原恵三『原南遺跡発掘調査報告書』（1984）高知県文化財団埋蔵文化財センター
高橋啓明『ひびのきサウジ遺跡』（1990）土佐山田町教育委員会
小松大洋・池澤俊幸・出原恵三『下ノ坪遺跡Ⅰ』（1997）野市町教育委員会
廣田佳久『伏原大塚古墳』（1998）土佐山田町教育委員会
山本哲也『高柳遺跡・高柳土居城跡発掘調査報告書』（1992）土佐山田町教育委員会
中山泰弘『楠目城跡』（2002）土佐山田町教育委員会

第Ⅲ章　調査の概要

第１節　試掘確認調査

原南遺跡内に香美市立保育園の建設計画が浮上したことにより、担当課と計画の概要及び対象区域の確認並びに調査予定期間についての話し合いをした結果、対象面積5,608㎡に対し平成19年12月20日より28日にかけて試掘確認調査を実施することを決定した。

周辺の地権者からの同意と理解も得られ、比較的スムーズに調査を実施することができた。

試掘確認調査では、対象区域内に計８ヵ所のトレンチを設定した。重機により表土を除去した後、人力を併用し遺構及び遺物の検出に努めた。トレンチの規模は３ｍ×３ｍを基本とする。

ＴＲ１、ＴＲ２においては遺構及び遺物は確認できなかった。耕作土直下より黒ボクがみられる。

堆積状況はほぼ水平で、黒ボク層は厚い。表土下1.5mより人頭大の川原石が多く堆積している。ＴＲ３、ＴＲ５、ＴＲ６、ＴＲ８では遺構が確認できた。

西に行くにつれ、検出面は深くなる傾向にある。

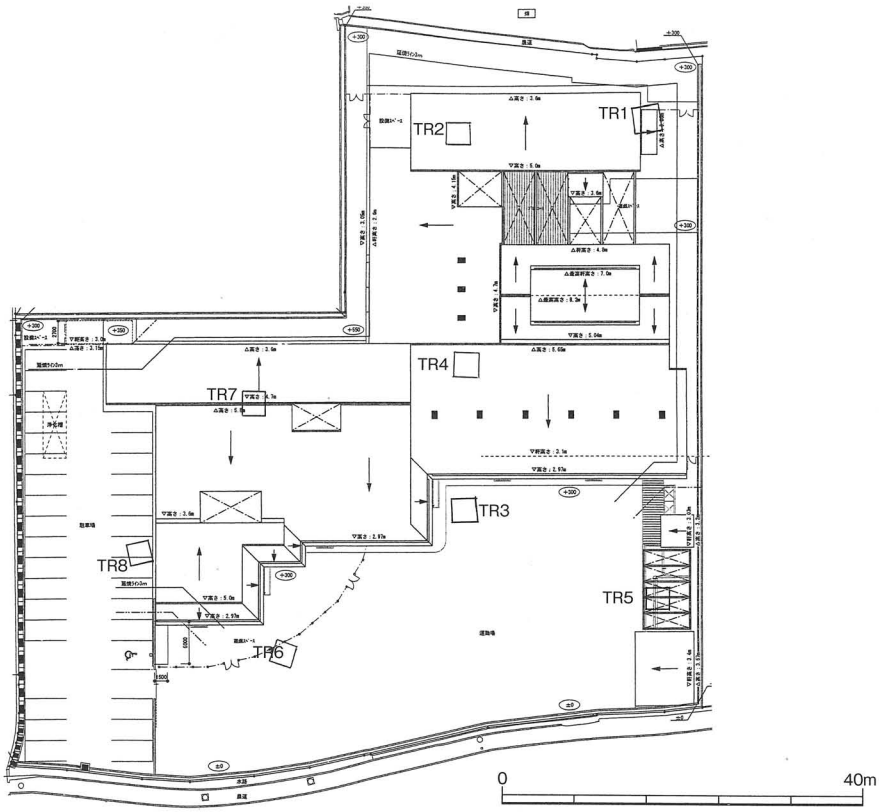
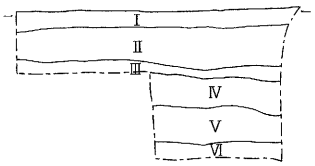


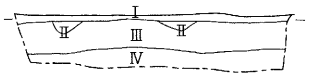
Fig. 3　試掘確認調査　トレンチ位置図

TR1



Ⅰ：耕作土
Ⅱ：10YR1.7/1　黒色粘質土
Ⅲ：10YR2/2　黒褐色粘質土
Ⅳ：10YR2/1　黒色粘質土
Ⅴ：10YR5/4　にぶい黄褐色砂質土
Ⅵ：10YR4/4　褐色砂質土礫混層（人頭大の石混）

TR2

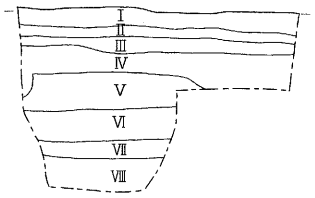


Ⅰ：耕作土
Ⅱ：Ⅰ層よりやや明るい土
Ⅲ：10YR5/4　にぶい黄褐色砂質土
Ⅳ：10YR4/4　褐色砂質土

TR3

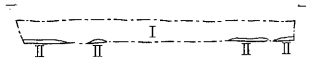
Ⅰ：耕作土
Ⅱ：基盤層
Ⅲ：10YR2/3　黒褐色粘質土（しまり有、マンガン含む。遺物包含層）
Ⅳ：10YR2/2　黒褐色粘質土

TR4



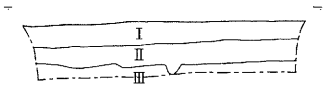
Ⅰ：耕作土
Ⅱ：基盤層
Ⅲ：10YR2/3　黒褐色粘質土（しまり有、マンガン含む。遺物包含層）
Ⅳ：10YR2/3　黒褐色粘質土（しまり有、遺物包含層）
Ⅴ：10YR1,7/1　黒色粘質土
Ⅵ：10YR　にぶい黄褐色粘質土（しまり有、遺物包含層）
Ⅶ：10YR5/4　にぶい黄褐色砂質土
Ⅷ：10YR4/4　褐色砂質土礫混層

TR5



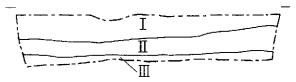
Ⅰ：10YR2/3　黒褐色粘質土（しまり有、マンガン含む。遺物包含層）
Ⅱ：10YR2/2　黒褐色粘質土

TR6



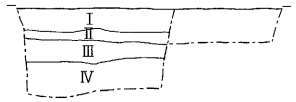
Ⅰ：耕作土
Ⅱ：10YR2/3　黒褐色粘質土（しまり有、マンガン含む。遺物包含層）
Ⅲ：10YR2/2　黒褐色粘質土

TR7



Ⅰ：基盤層
Ⅱ：10YR2/3　黒褐色粘質土（しまり有、マンガン含む。遺構検出面）
Ⅲ：10YR2/2　黒褐色粘質土

TR8



Ⅰ：耕作土
Ⅱ：基盤層
Ⅲ：10YR2/2　黒褐色粘質土
Ⅳ：10YR2/2　黒褐色粘質土（Ⅲ層と比べて褐色が強い）

DLはいずれも 29.0m

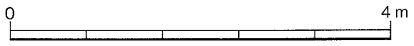


Fig. 4　試掘確認調査土層断面図

第２節

試掘確認調査の結果を基に、逆Ｌ字型の調査区の東側で南北に長い部分をＩ区、北側の東西に長い部分をⅡ区と設定した。

表土下約40cmで遺構が確認できた。

Ｉ区

南端は黒ボクの検出面がなく、遺構及び遺物はほとんど確認できなかった。ＳＢ１付近になると、柱穴がいくつか出現する。

土壙も数基検出しているが、溝跡や住居跡は確認できなかった。

Ⅱ区

表土直下、基盤層から遺物包含層にかけて、須恵器片を多く含む。

住居跡と考えられる遺構を西端で検出している。この地点は、基盤層から包含層までの遺物出土量が多かった。溝跡も確認しており、底面から遺物が出土している。

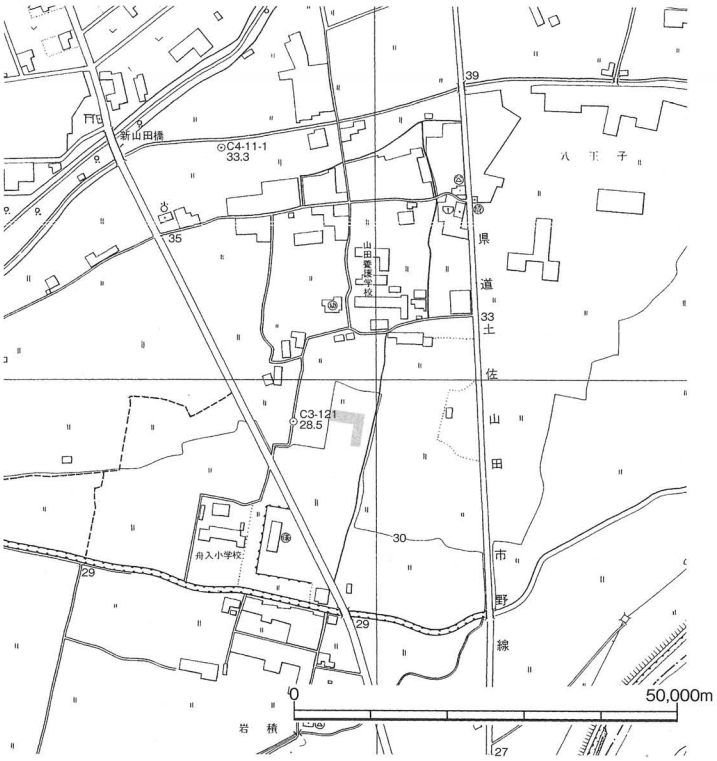


Fig. 5　調査区位置図

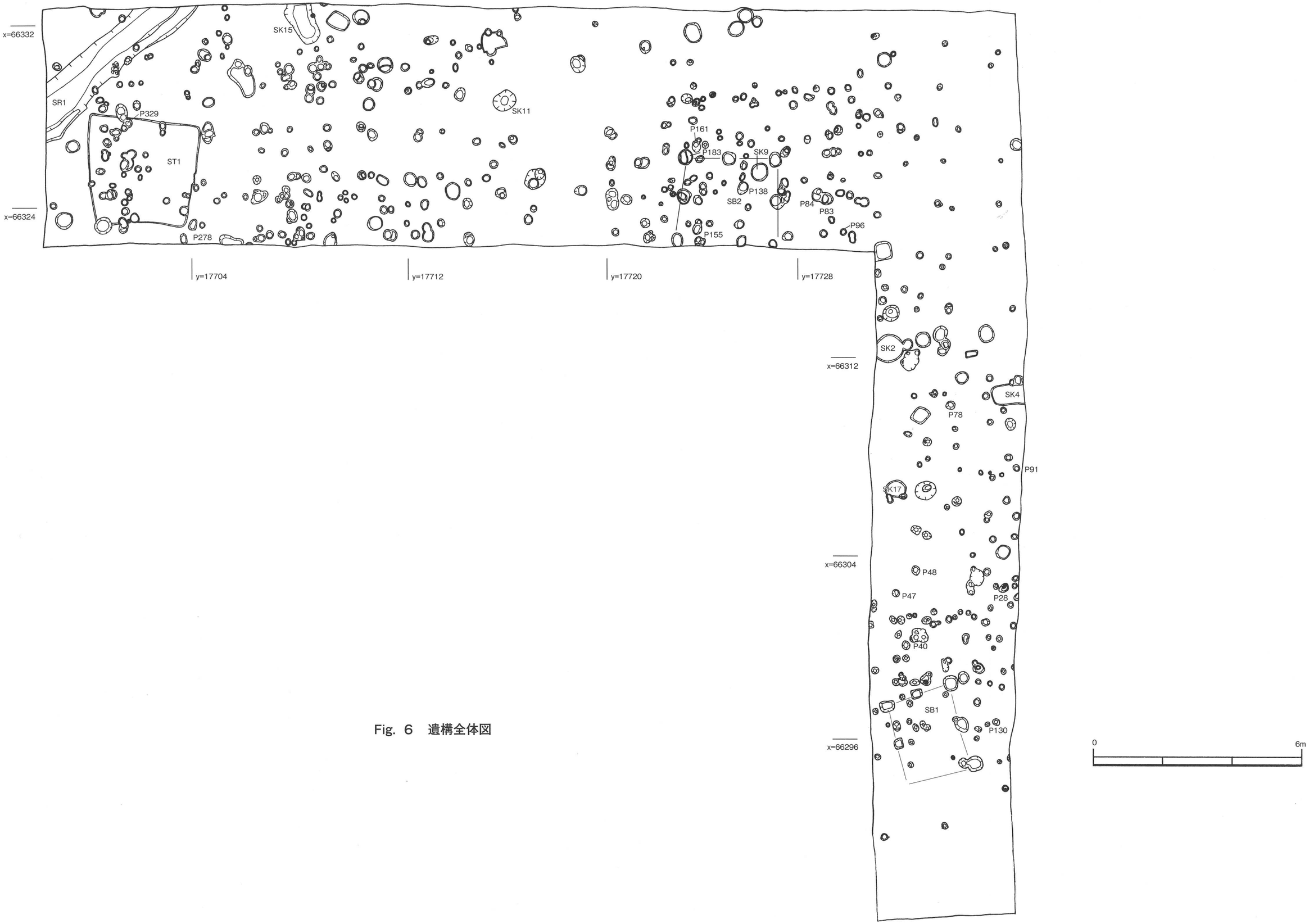

x=66332
x=66324
x=66312
x=66304
x=66296
y=17704
y=17712
y=17720
y=17728
SR1
P329
ST1
P278
SK15
SK11
P161
P183
SK9
P138
SB2
P84
P83
P96
P155
SK2
SK4
P78
P91
SK17
P48
P47
P28
P40
SB1
P130
0
6m

Fig. 6　遺構全体図

第Ⅳ章　　遺構と遺物

1．掘立柱建物跡

ＳＢ１（Fig. ７）

調査区南で検出された。２間×２間の掘立柱建物である。柱間距離は1.４～1.7m、柱穴規模は40～60cmで、プランが方形のピットがある。土師器及び須恵器の細片が出土しているが、図示できるものはなかった。柱穴の埋土は10ＹＲ２／３黒褐色粘質土である。

ＳＢ２（Fig. ８）

調査区北寄りで検出された。２間×２間の掘立柱建物である。柱間距離は1. 8m、柱穴規模は、36～68cmで、プランは円形及び楕円形である。

土師器及び須恵器の杯身と杯蓋が出土しているが、図示できるものはなかった。

柱穴の埋土はいずれも10ＹＲ３／２黒褐色粘質土である。

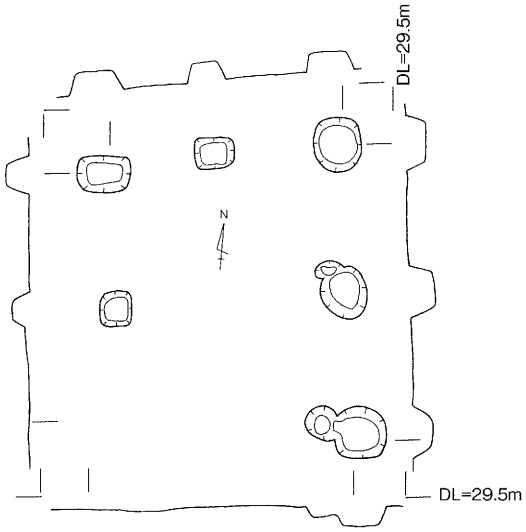


Fig. ７　ＳＢ１平面図及びエレベーション図

2．竪穴住居跡

ＳＴ１（Fig. 10）

調査区西端で検出された、隅丸方形の竪穴状遺構である。後世のものと考えられる柱穴が多く、ＳＴ１に伴う柱穴を断定できなかった。

黄色及び赤色土の集中を遺構内の北で一ヵ所確認している。出土遺物は、土師器･須恵器･鉄器のほか２、２がある。１は、土師器杯で２㎜程度の砂粒を含む。底部にはヘラ切痕が残る。胎土の色は10ＹＲ７／２にぶい黄橙色である。

２も同じく土師器杯である。胎土は10ＹＲ８／２灰白色で、底部にはヘラ切痕が残る。口縁部から胴部にかけて横方向ナデ調整が見られ、底部からやや直立気味に立ち上がる。

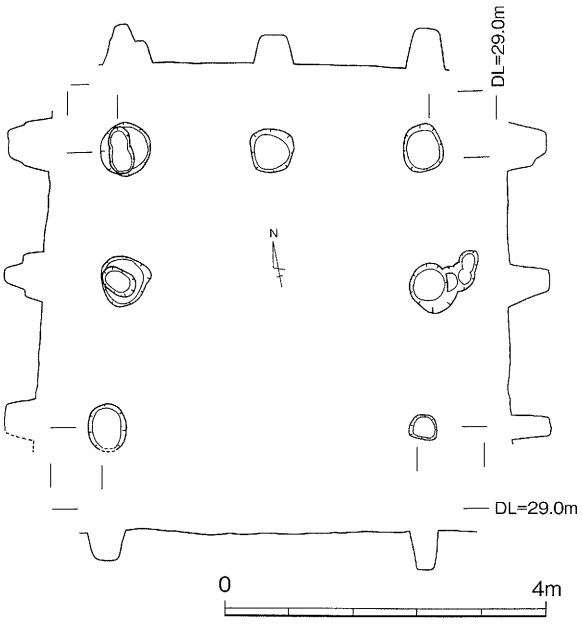


Fig. ８　ＳＢ２平面図及びエレベーション図

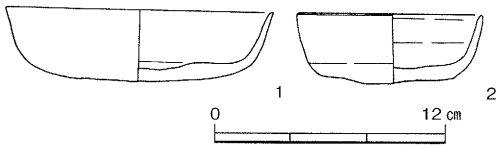


Fig. 9　ＳＴ１出土遺物実測図

３．溝

ＳＲ１（Fig. 12）

調査区西端で検出され、ＳＴ１の北に位置する。

深さは約60cmで、埋土は黒ボクと下層に褐色粘質土が堆積しており、南には砂岩とチャートの集石が見られた。

遺構の底から遺物が出土している（Fig11－３～５）。３は、須恵器である。口縁部から内面にかけて砂粒が付着している。４も須恵器で、内外面は横方向のナデ調整を施す。

５は、弥生土器である。２～４cm程度の砂を含む。外面には丁寧なミガキが見られる。

埋土中から出土した遺物は、土師器と須恵器が多い。

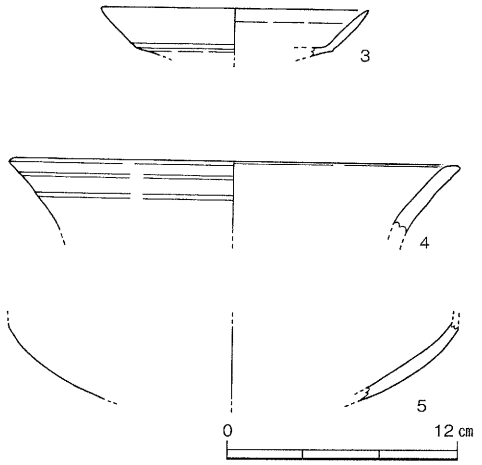


Fig. 11　ＳＲ１出土遺物実測図

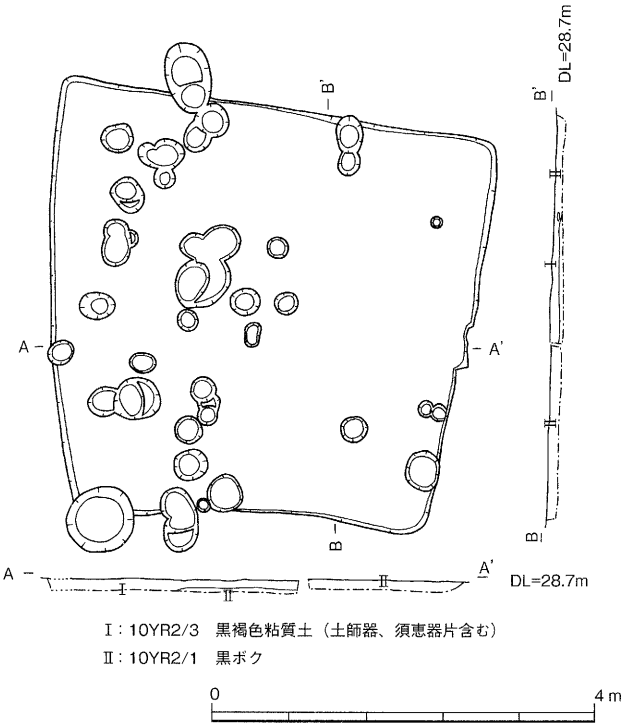


Fig. 10　ＳＴ１平面図及び断面図

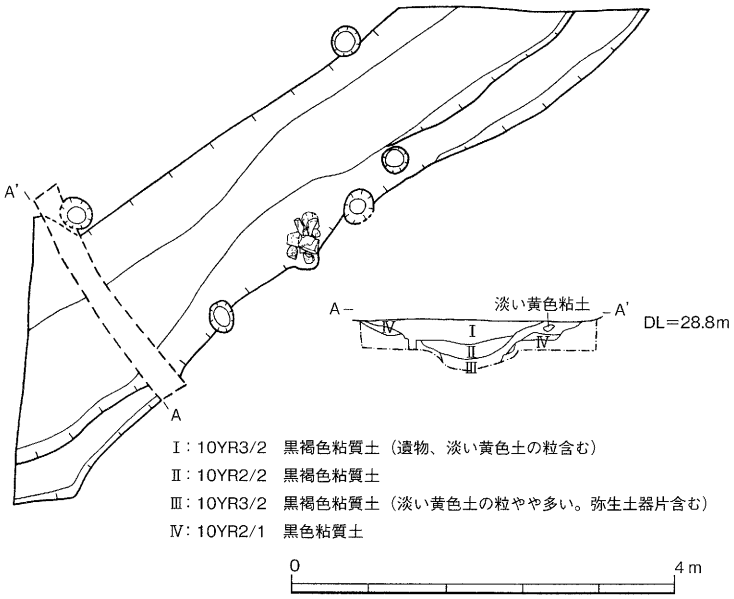
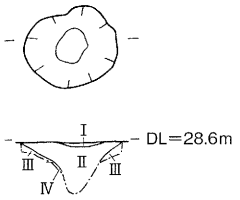


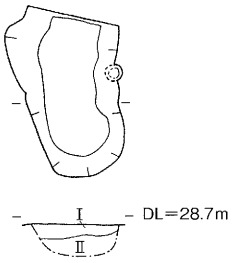
Fig. 12　ＳＲ１平面図及び土層断面図

4．土壙



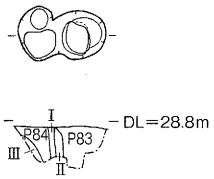
Ⅰ：10YR3/2　黒褐色粘質土
Ⅱ：10TR2/2　黒褐色粘質土（10YR4/3 にぶい黄褐色粘砂土混じる）
Ⅲ：10YR2/3　黒褐色粘質土
Ⅳ：10YR4/4　褐色砂質土（地山）

Fig. 13　ＳＲ１平面図及び土層断面図



Ⅰ：10YR3/2　黒褐色粘質土
Ⅱ：10YR2/2　黒褐色粘質土（固くしまっている）

Fig. 14　ＳＫ15平面図及び断面図



Ⅰ：10YR3/2　黒褐色粘質土（淡い黄色土の粒少量含む）
Ⅱ：10YR2/2　黒褐色粘質土（固くしまっている）
Ⅲ：10YR2/3　黒褐色粘質土（淡い黄色土の粒やや多い）
P83：10YR3/2　黒褐色粘質土
P84：10YR2/3　黒褐色粘質土

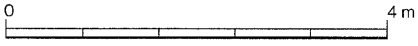


Fig. 15　P83. P84平面図及び断面図

ＳＫ 11

調査区中央に位置する。幅１ｍの円形で深さ54cmを測る。擂鉢状を呈しており、性格は不明である。

埋土は、黒褐色粘質土ににぶい黄褐色土が混じり、まだら状になっている。しまりはなかった。

図示できる遺物は出土していない。

ＳＫ 15

調査区北西に位置する。プランは長方形を呈すると考られる。深さ約60cmを測り、床面はほぼ水平である。土師器及び須恵器片が出土しているが、図示できるものはない。

5．柱穴

調査区北で検出された柱穴である。P83は長径 58cmの楕円形で深さ38cmを測る。P84は54cmの円形で深さ46cmを測る。P83からは敲石（63）が出土している。

Ｉ区のP78からは、遺構内の側面に張り付く形で輪高台が付いた土師器椀（13）が出土している。P300 から出土した瓦質土器鍋の口縁部（20）は、細長い砂岩を縦にした状態の中から出土した。

また、ＳＴ１東のP278からは古銭が出土している。破損しており、外面もかなり磨耗していることから図示できなかった。

6．出土遺物について

出土遺物のうち、包含層出土となっているものの中には、調査区北から出土した遺物もある（NO45～58、67～70）。

弥生土器から近世陶磁器まで時代は幅広いが、特に多く見られたのは須恵器と中世の遺物である。23は土師器甕である。頸部に一条沈線が巡り、内面には横方向のハケ調整が見られる。外面に被熱して黒くなった部分がある。外面は縦方向にハケで仕上げ、内面は指頭圧痕が顕著に見られる。胴部から底部にかけてヘラケズリが認められる。

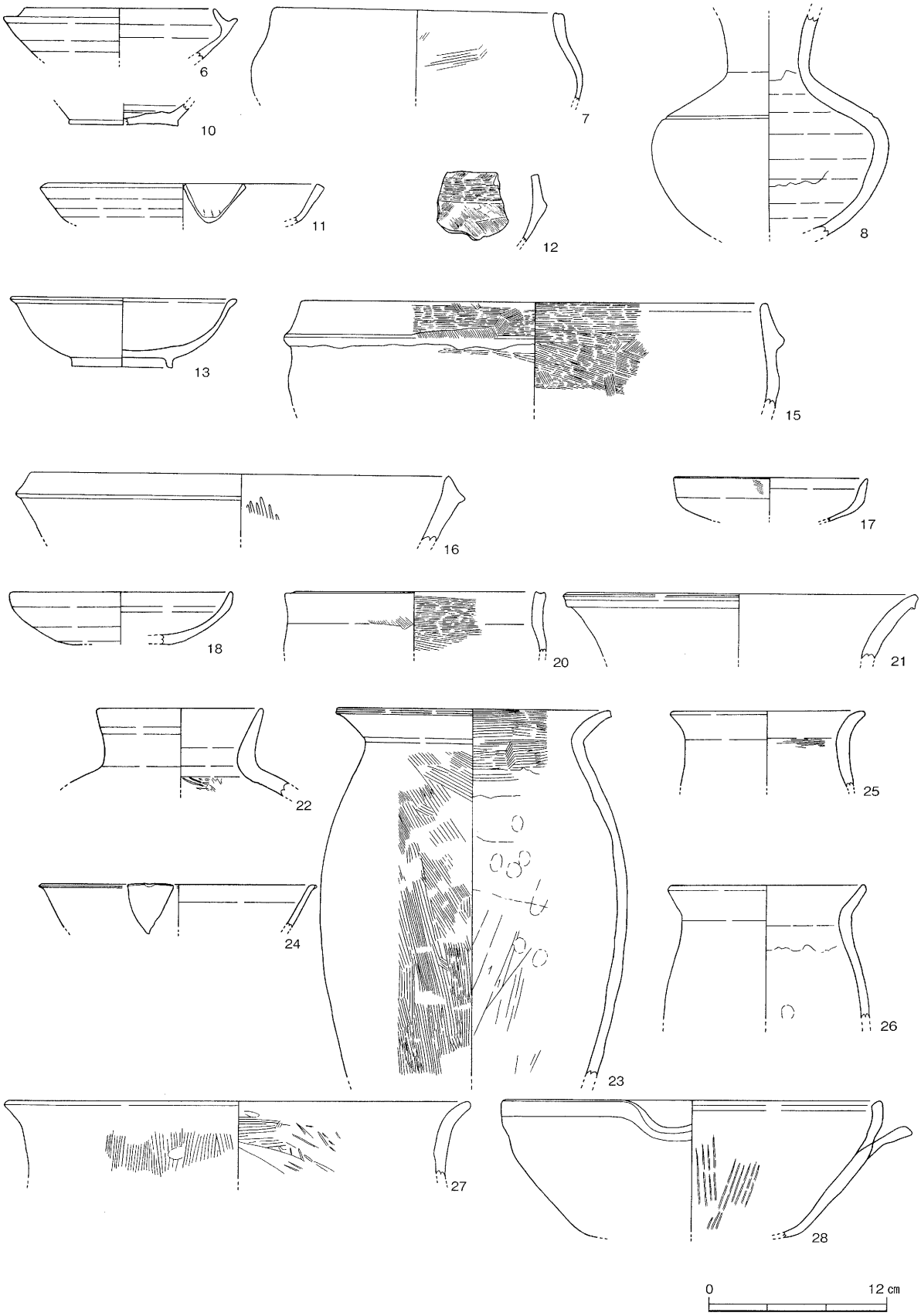


Fig. 16　出土遺物実測図１（遺構及び包含層出土）

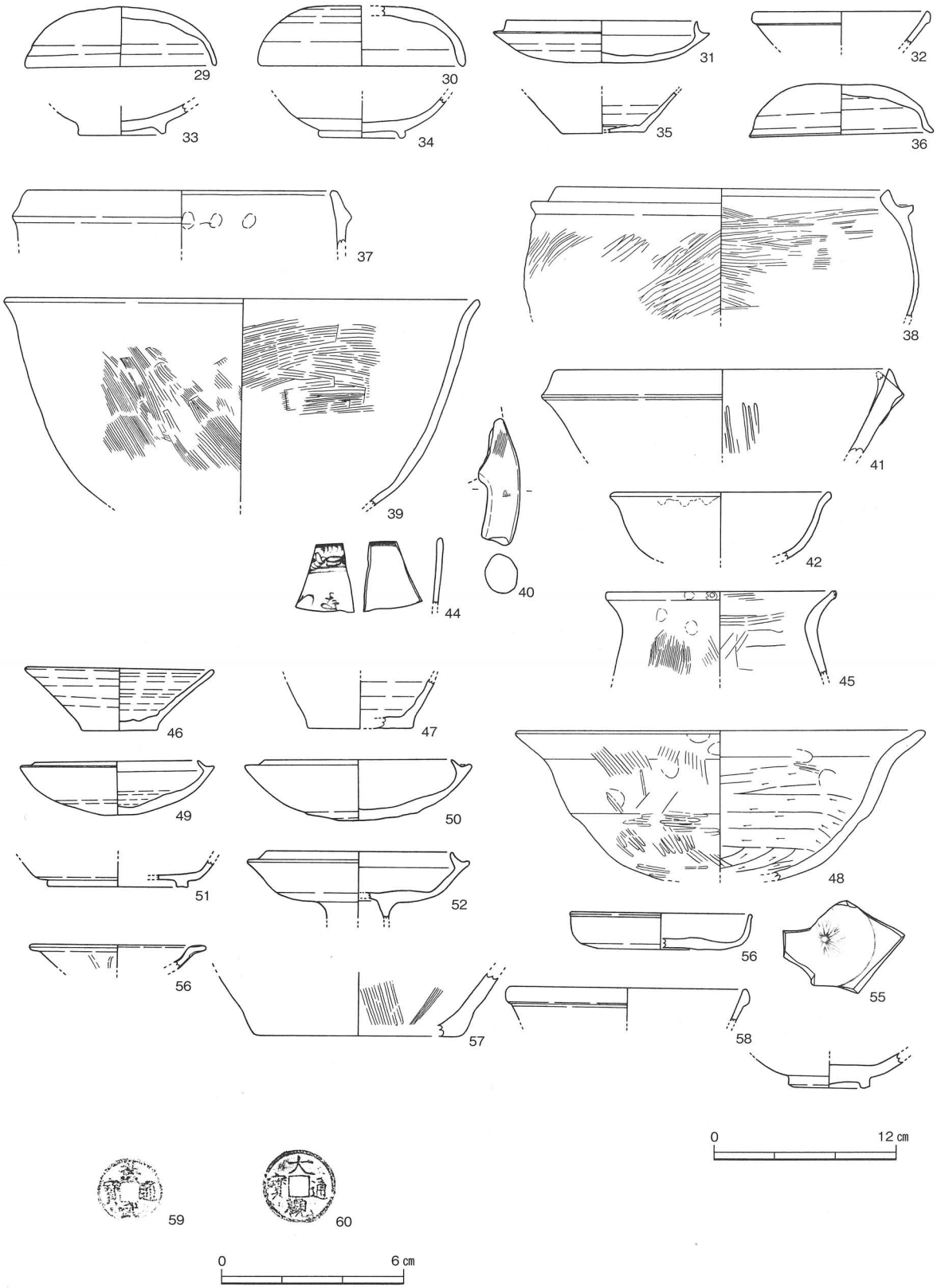


Fig. 17　出土遺物実測図２（遺構及び包含層出土）

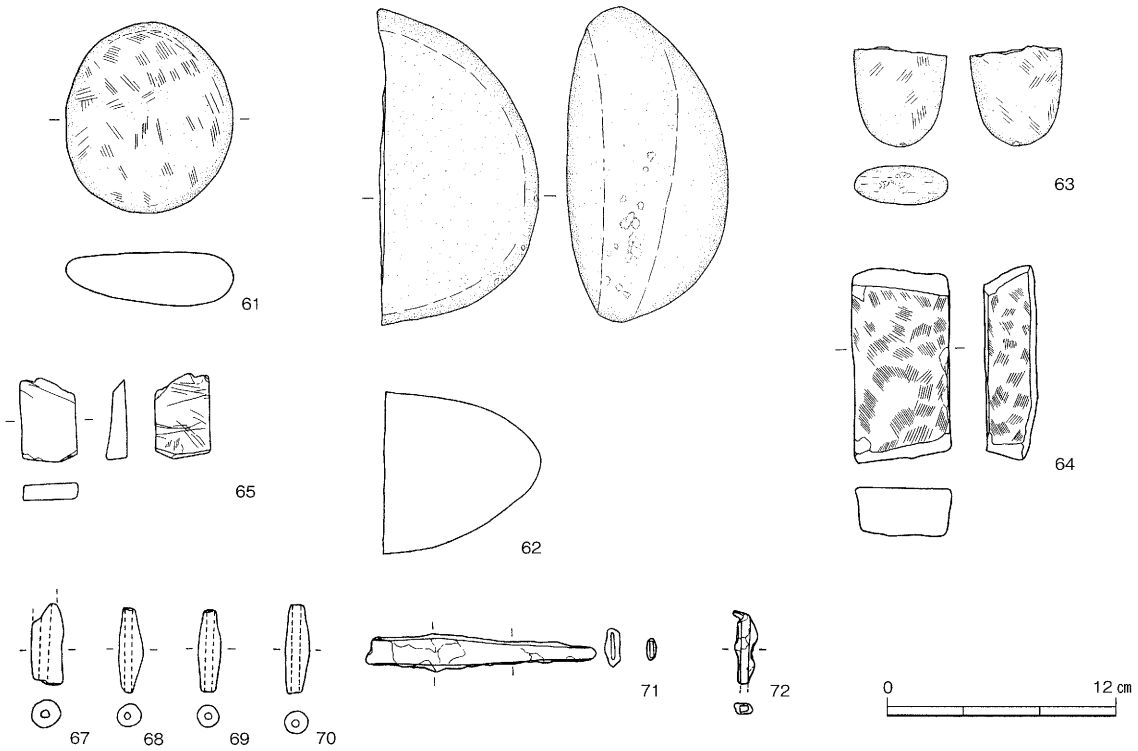


Fig. 18　出土遺物実測図３（石製品、土錘、鉄製品）

番号	挿図番号	遺　構	器　種	器　形	法　量（cm）				特　　徴	備　　考
					口径	器高	胴径	底径		
1	Fig.9	ST1	土師器	杯	14.2	3.9			内外面横方向のナデ調整。底部はヘラ切痕あり 斜上方に立ち上がり、口唇部は丸くおさめる	
2	Fig.9	ST1	土師器	杯	10.3	4.2		7.2	内外面横方向のナデ調整。底部はヘラ切痕あり 斜上方やや直立気味に立ち上がり、口唇部は丸くおさめる	
3	Fig.11	SR1 バンク	須恵器	高杯か	23.8				内面に砂付着。外面口縁部沈線二条めぐる	
4	Fig.11	SR1	須恵器	不明	14.2				胴部一条沈線めぐる	
5	Fig.11	SR1	弥生土器	高杯					外面ミガキ。内面指頭圧痕あり。胎土に２～３㎜の砂粒含む	
6	Fig.16	SK2	須恵器	杯身	16				内外面ナデ調整。立ち上がりは内湾気味に内傾し、端部は細い	
7	Fig.16	SK4	瓦質土器	鍋	19.8				外面に煤付着。口唇部に一条沈線めぐる	
8	Fig.16	SK9	須恵器	壺			17.4		内外面回転ナデ調整。肩部に一条沈線めぐる	
9	Fig.16	SK17	須恵器						胴部に文様あり。胎土に２～３㎜の砂粒多く含む	
10	Fig.16	P28	土師器	杯				7.4	内外面回転ナデ調整。底部回転糸切痕あり	底部糸切り
11	Fig.16	P47	陶磁器		19.6				内外面及び口唇部に薄く施釉。内面三条の線あり	
12	Fig.16	P48	土師器	鍋					内外面ナデ調整。胎土に雲母、４～５㎜の砂粒含む	
13	Fig.16	P78	土師器	椀	15.4	4.8			内外面ロクロ調整。断面方形の高台がつく胴部は内湾して立ち上がり、口縁部は外反する	
14	Fig.16	P96	須恵器	鍋	23				内外面に横方向ナデ調整	
15	Fig.16	P138	土師器	釜	31.7				外面に煤付着。胎土に雲母混じる。内外面横方向ナデ調整	
16	Fig.16	P155	備前	擂鉢					口縁の平坦部が幅広く作られている。内外面ロクロ調整	Ⅳ期
17	Fig.16	P161	土師器	皿	14.2				斜め上方に立ち上がり、湾曲すると上に向かって立ち上がる	
18	Fig.16	P183	須恵器	杯	15.2				斜め上方に立ち上がり、湾曲すると上に向かって立ち上がる 内外面ロクロ調整	
19	Fig.16	P201	瓦質土器	鍋	18.9				外面口縁部下に煤付着。内外面横方向ナデ調整胴部は内湾気味に立ち上がる	
20	Fig.16	P300	瓦質土器	鍋	18.2				内外面横ナデ調整。口唇部に一条沈線めぐる 口縁部は真上を向いて立ち上がる	
21	Fig.16	P329	須恵器		23.6				内外面ロクロ調整。内面に自然釉	
22	Fig.16	包含層	須恵器	短頸壺	11.2				内外面ロクロ調整。口縁端部は丸くおさめる	
23	Fig.16	包含層	土師器	甕	18.6				口縁部内外面横方向ナデ。内面指頭圧痕、胴部～底部にかけてケズリ。口唇部に一条沈線めぐる	
24	Fig.16	包含層	陶磁器						口唇部に凹みあり。皿か	
25	Fig.16	包含層	弥生土器	甕	14.4				内面横方向ナデ調整。２㎜程度の砂粒混じる	
26	Fig.16	包含層	土師器	甕	14.4				内外面とも磨耗が激しい	
27	Fig.16	包含層	土師器	甕					口縁部内外面横方向ナデ。外面頸部縦方向のハケ調整	
28	Fig.16	包含層	土師器	擂鉢	28				二次焼成を受けた痕跡あり。注口、４条１単位の擂り目が認められる	
29	Fig.17	包含層	須恵器	杯蓋	13.7	4.7			天井部外面にヘラ切痕あり。端部は丸く収める内面横方向ナデ。口縁部少し上に一条沈線めぐる	
30	Fig.17	包含層	須恵器	杯蓋	15	4.3			天井部外面にヘラ切痕あり。端部は丸く収める内面横方向ナデ。外面も横方向ナデだが所々に縦方向ナデ	
31	Fig.17	包含層	須恵器	杯身	13.6	3.1			焼成不良。内外面とも磨耗が激しい	
32	Fig.17	包含層	白磁	碗	12.4				口縁部に薄く肥厚する玉縁を持つ	
33	Fig.17	包含層	土師器	椀				6.2	真下を向く高台が付く	
34	Fig.17	包含層	土師器	皿				5.8	「ハ」の字状に開く断面方形の高台が付く外面にロクロ調整	
35	Fig.17	包含層	土師器	杯				5.8	内外面ロクロ調整。底部糸切痕あり	
36	Fig.17	包含層	須恵器	杯蓋	12.3	3.7			内外面ロクロ調整。口唇部外反する	

Tab. 2　遺物観察表（NO1 ～ 36）

番号	挿図番号	遺　構	器　種	器　形	法　量（cm）				特　　徴	備　　考
					口径	器高	胴径	底径		
37	Fig.17	包含層	土師質土器	羽釜	22.4				外面煤付着	
38	Fig.17	包含層	土師質土器	鍋	22.2				外面煤付着、右上がり叩き目痕。内面横方向ハケ調整	播磨型
39	Fig.17	包含層	弥生土器	鉢					外面左上がりのハケ調整。内面横方向ハケ調整。口縁部内外面ヨコ方向ナデ。斜め上方に立ち上がり外反	
40	Fig.17	包含層	土師器	鍋脚部					荒粒砂含む	
41	Fig.17	包含層	備前	擂鉢	24				胎土 2mm 程度の石英含む	Ⅳ期
42	Fig.17	包含層	陶磁器	碗	15.4				内外面に施釉	
43	Fig.17	包含層	須恵器	壺	17.6				外面に煤付着	
44	Fig.17	包含層	国産陶磁器	不明	10.6				外面口縁部に宝文か	
45	Fig.17	包含層	弥生土器	甕	16.2				口唇部に円形浮文。胴部外面縦方向にハケ調整内面ヘラケズリ	Ⅴ－２様式か
46	Fig.17	包含層	土師質土器	杯	13.6	4.6		5.4	底部回転糸切痕。内外面共にロクロ目が顕著	
47	Fig.17	包含層	土師器	杯	27.2			7.2	底部糸切痕。内外面共にロクロ目が顕著	
48	Fig.17	包含層	弥生土器	鉢					胎土に荒粒砂含む。外面胴部から底部にタタキ目あり口縁部内外面ヨコ方向ナデ。内面胴部から底部ハケ調整	
49	Fig.17	包含層	須恵器	杯身	11.5	3.9			内面には成形時に生じた凹凸が残る	
50	Fig.17	包含層	須恵器	杯身	12.6	4.1			厚みがあり、内面に凹凸が残る	焼成不良
51	Fig.17	包含層	須恵器	杯				9.4	高台は畳付けが広くつくられている。外面ナデ調整	
52	Fig.17	包含層	須恵器	高杯	12.4				内外面横方向ナデ調整	
53	Fig.17	包含層	須恵器	皿	12	2.4			内外面横方向ナデ調整。口縁部は丸くおさめる	
54	Fig.17	包含層	瓦質土器	鍋	15.4				外面胴部から下煤付着。口縁部内外面横方向ナデ調整。胴部は内湾気味に上がり口縁部は真上を向く	
55	Fig.17	包含層	青磁	碗				5.4	底部露胎。見込に文様あり	
56	Fig.17	包含層	青磁	杯	12.8				蓮弁あり	
57	Fig.17	包含層	備前	擂鉢				15	内外面横方向ナデ調整	
58	Fig.17	包含層	白磁	碗	16.8				口縁部玉縁	

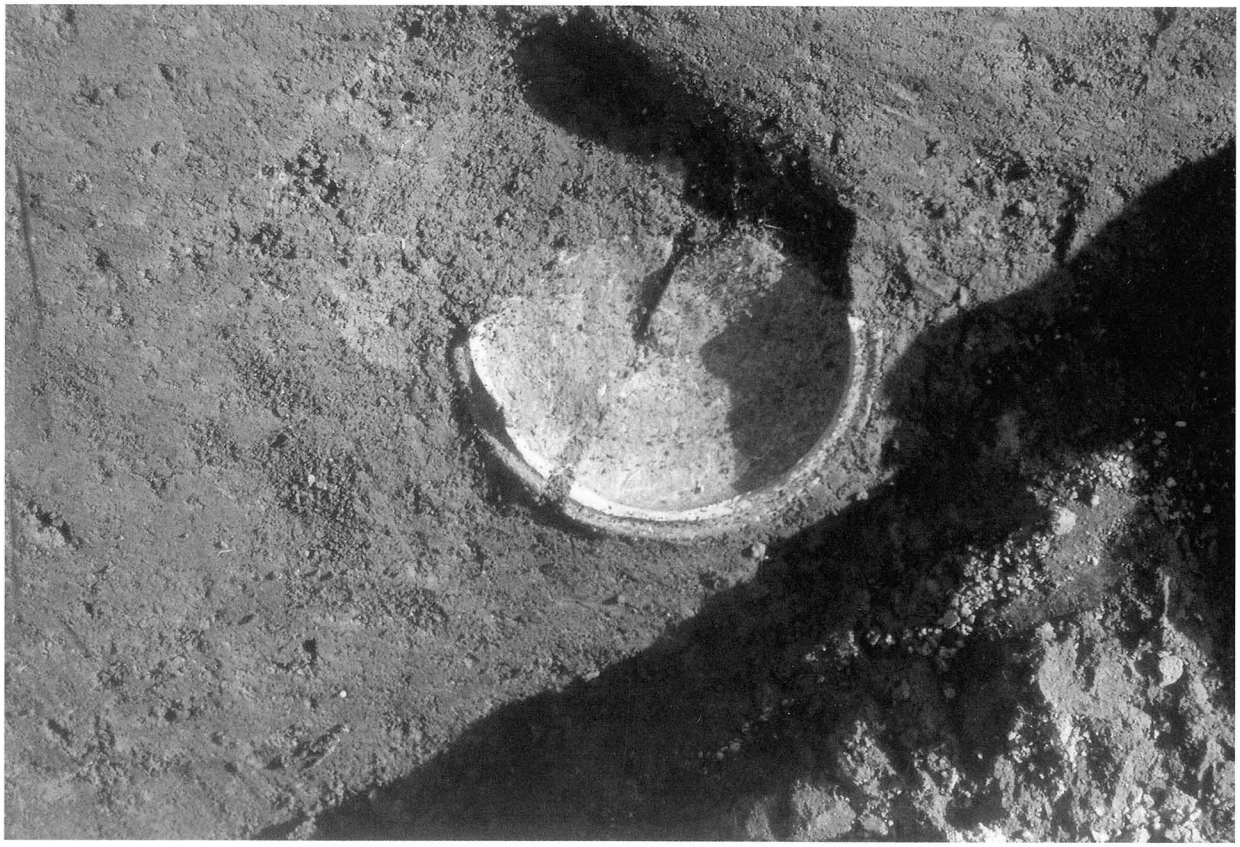
Tab. 3　遺物観察表（NO.37 ～ 58）

遺物番号	挿図番号	遺　構	器　種	器　形	法　量（cm）			備　　考
					全長	全幅	全厚	
59	Fig.17	P91	宋銭	洪武通宝				明。「洪」の字の判別が困難。劣化が激しい。
60	Fig.17	包含層	宋銭	大観通宝				北宋。
61	Fig.18	SR1	石器	磨石	10.1	8.9	2.9	砂岩。擦痕あり
62	Fig.18	P40	石器	磨石				砂岩。１／２欠損。側面に敲打痕あり
63	Fig.18	P83	石器	敲石	5.3	4.9	2.1	砂岩。１／２欠損。二面に擦痕、側面に敲打痕あり
64	Fig.18	P130	石器	砥石	10.3	5.25	2.7	砂岩。二面に使用痕あり
65	Fig.18	包含層	石器	砥石	4.5	2.9	1.1	砂岩。二面に使用痕あり。表面が剥離している
66	Fig.18	包含層	石器	砥石	12.1	6	2.6	
67	Fig.18	包含層	管状土錘		4.6	1.9	1.6	
68	Fig.18	包含層	管状土錘		4.9	1.4	1.3	
69	Fig.18	包含層	管状土錘		5.2	1.3	1.2	
70	Fig.18	包含層	管状土錘		5.1	1.4	1.3	
71	Fig.18	包含層	鉄製品		13.2	2.2	0.9	
72	Fig.18	包含層	鉄釘		4.15	1.4	0.6	

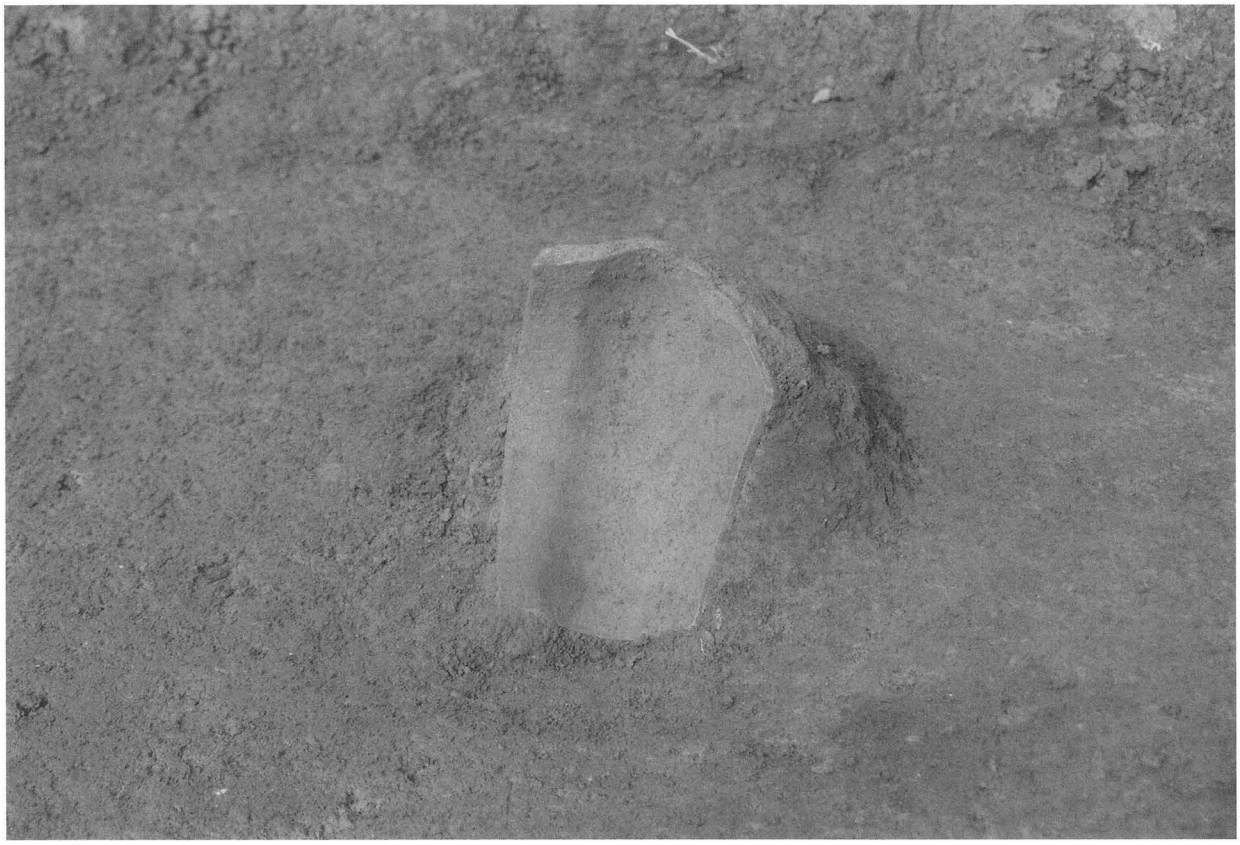
Tab. 4　遺物観察表（NO59 ～ 72）

写　真　図　版

Ⅰ区　調査前風景



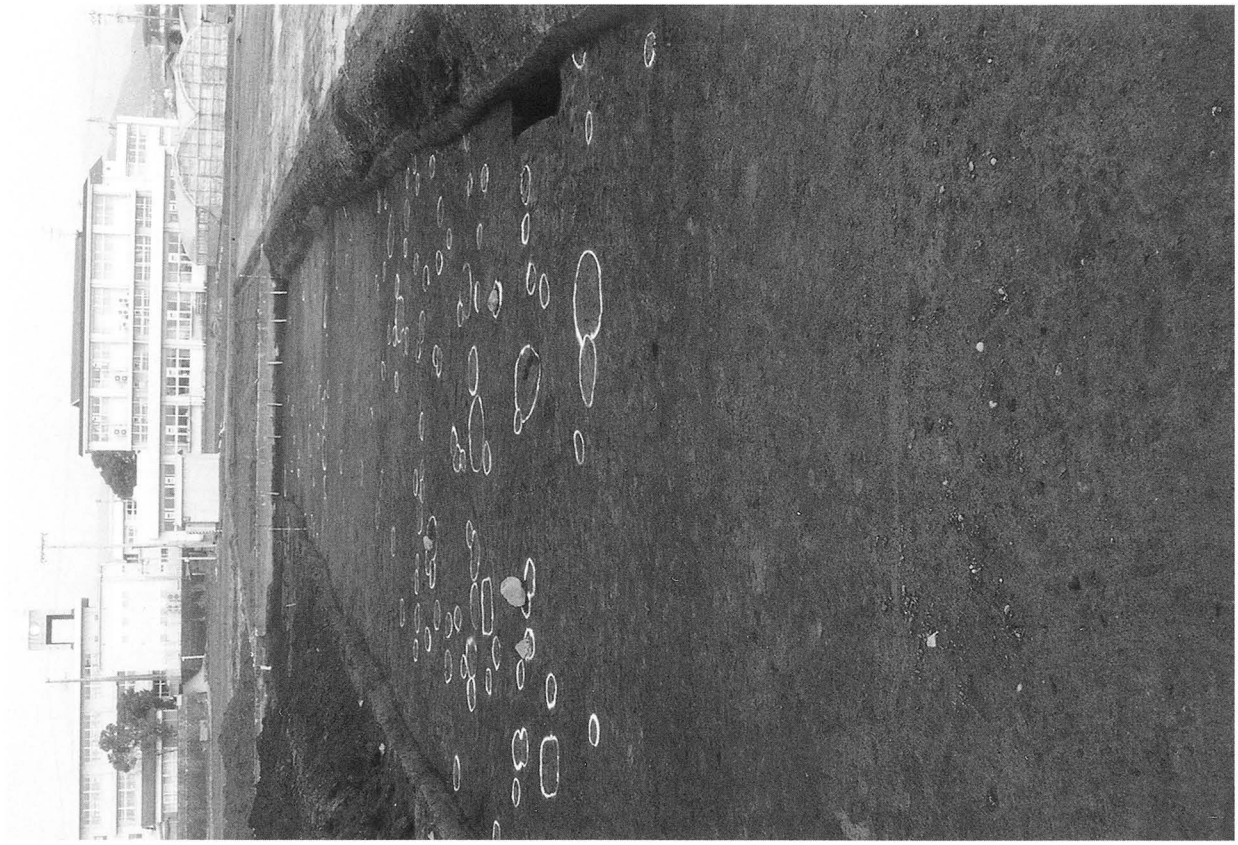
Ⅰ区　遺物出土状態



Ⅰ区　遺物出土状態

Ⅰ区　作業風景

Ⅰ区　遺構検出状態



Ⅰ区　遺構完掘状態

Ⅰ区　Ｐ 78　遺物出土状態

Ⅱ区　ＳＫ９遺物出土状態

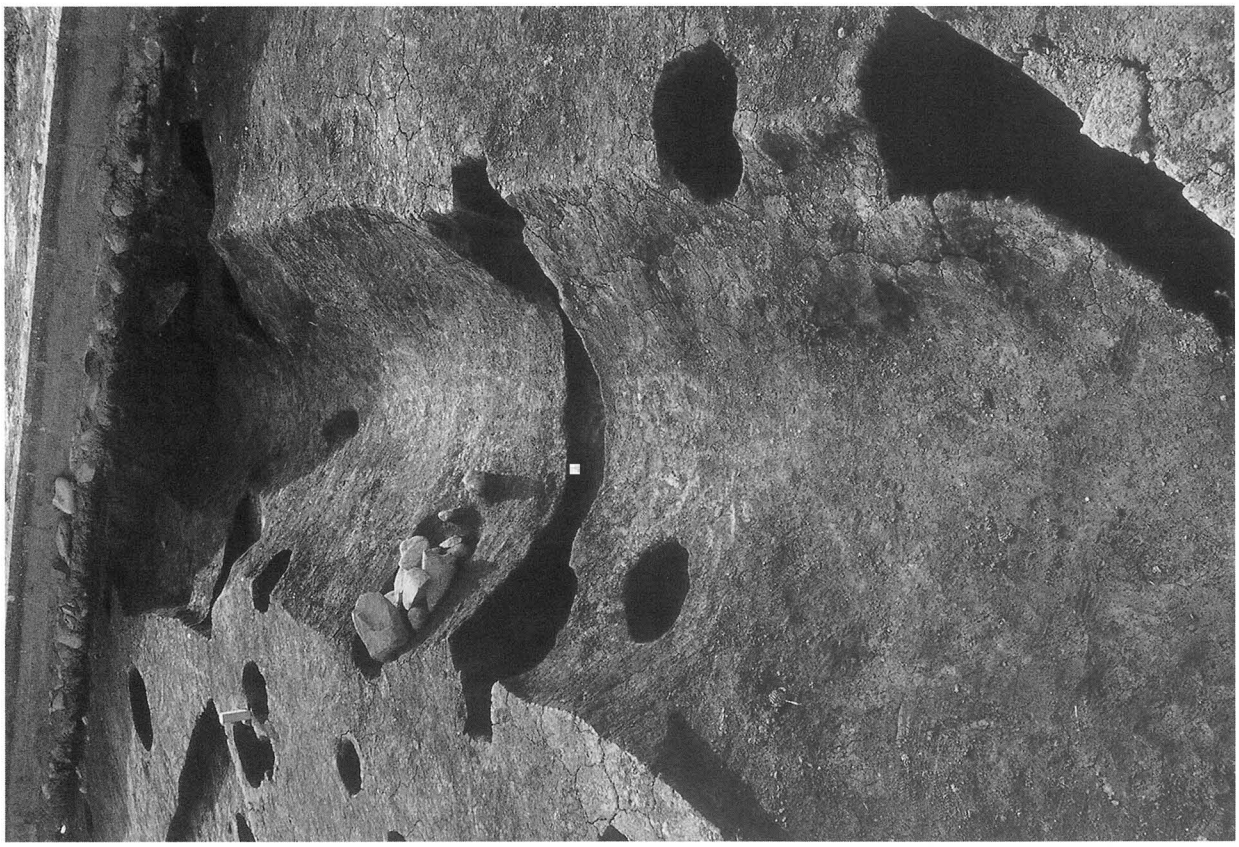
Ⅱ区　遺物出土状態

Ⅱ区　P138 土層断面

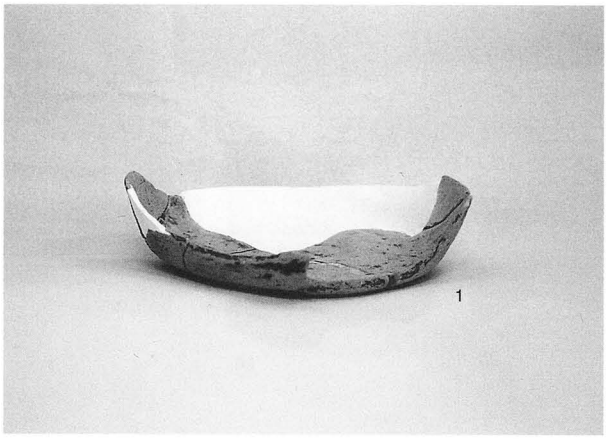
Ⅱ区　遺構検出状態

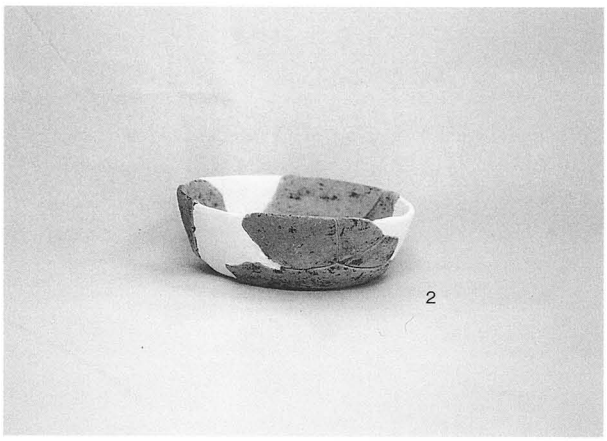
Ⅱ区　遺構完掘状態

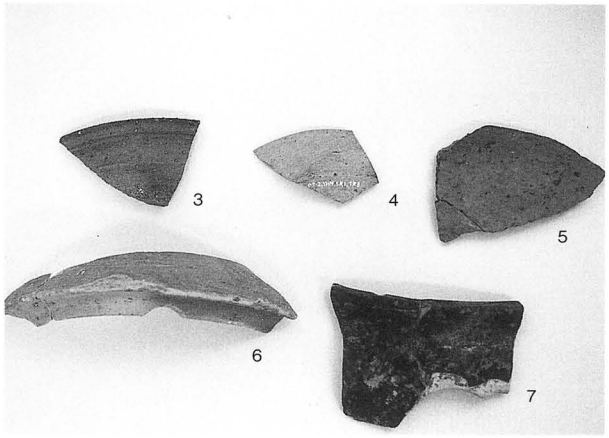
Ⅱ区　ＳＤ１　土層断面



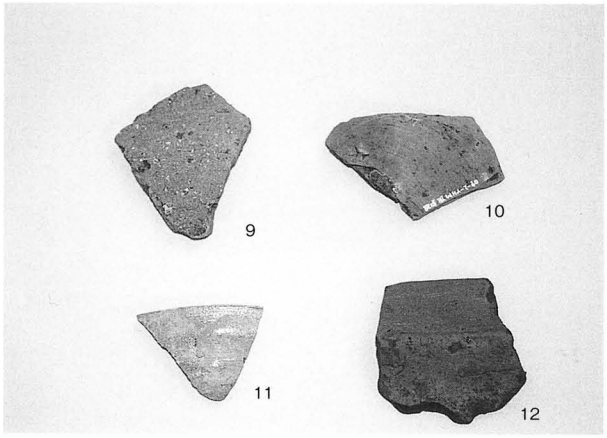
Ⅱ区　ＳＤ１　遺構検出状態

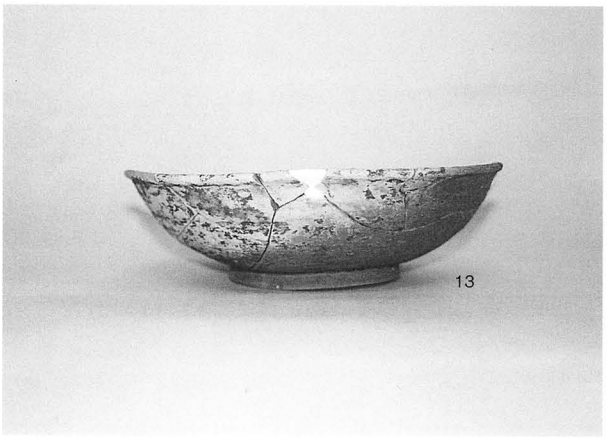

1

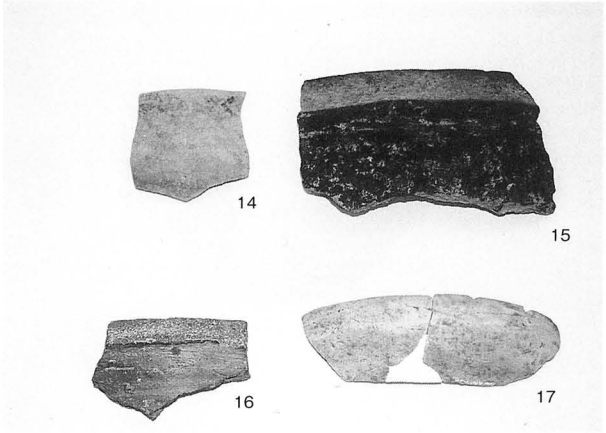

2

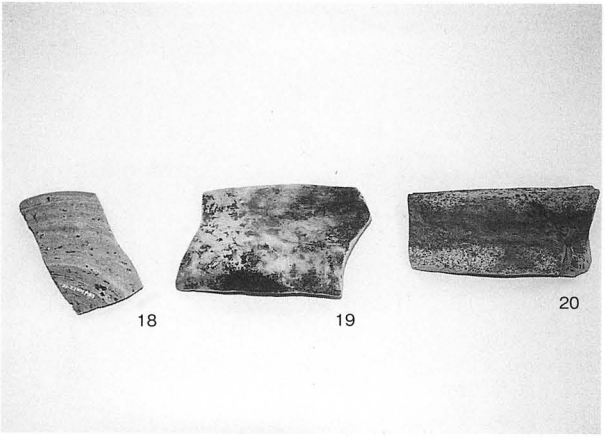

3
4
5
6
7

8

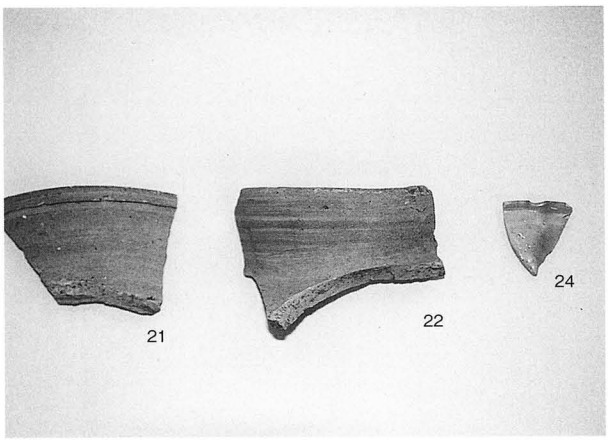

9
10
11
12

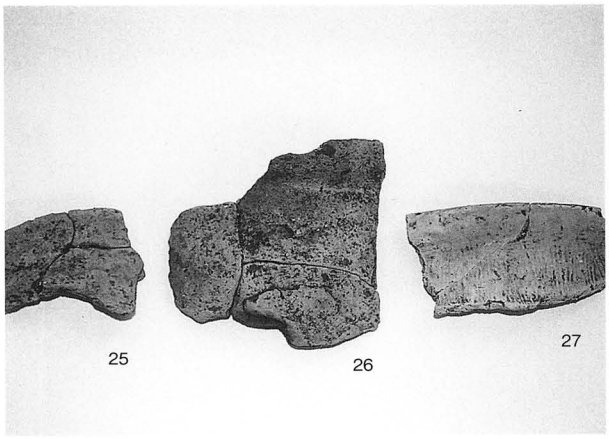

13

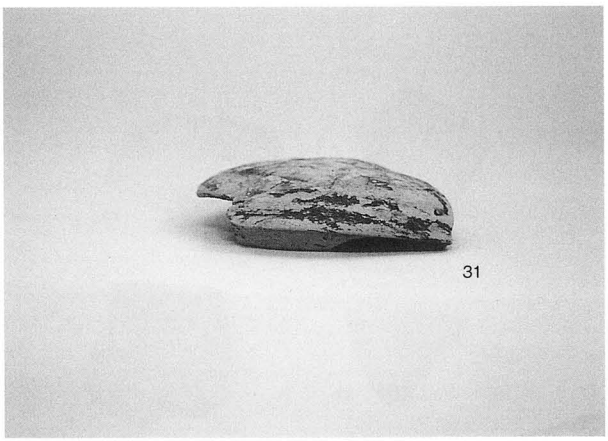

14
15
16
17

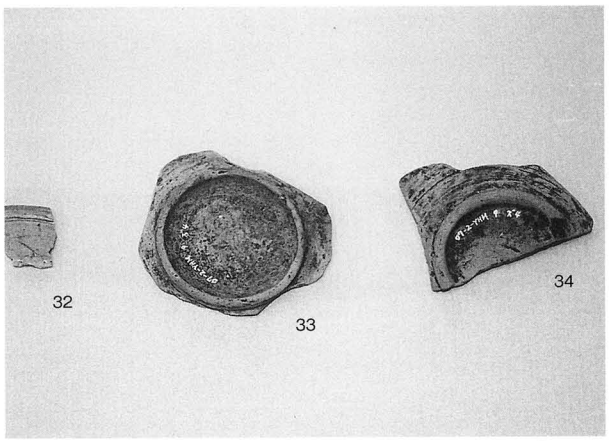

18
19
20

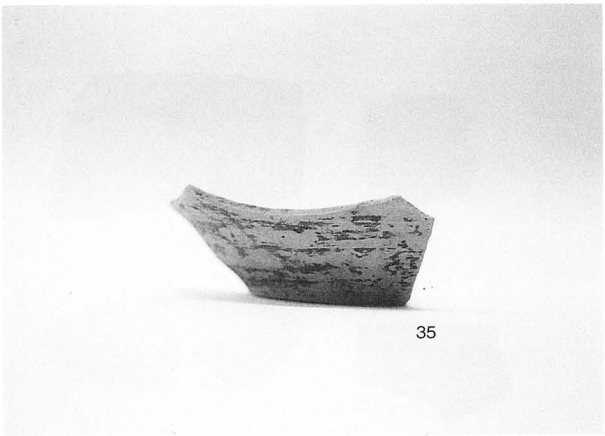
PL9



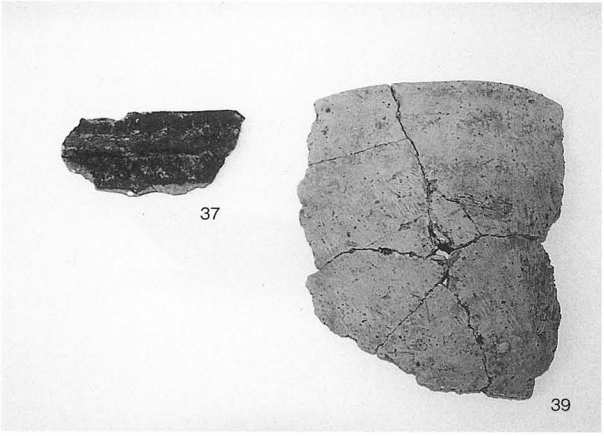


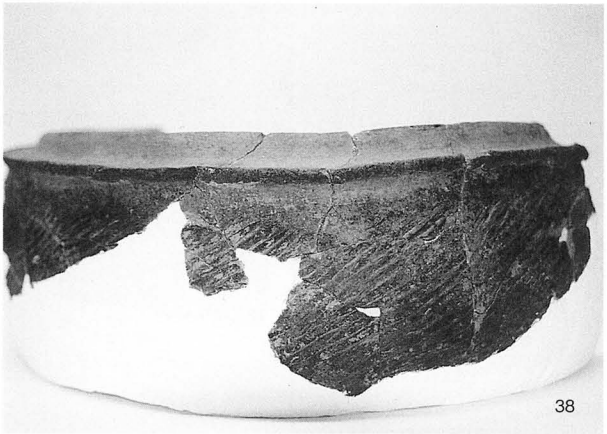


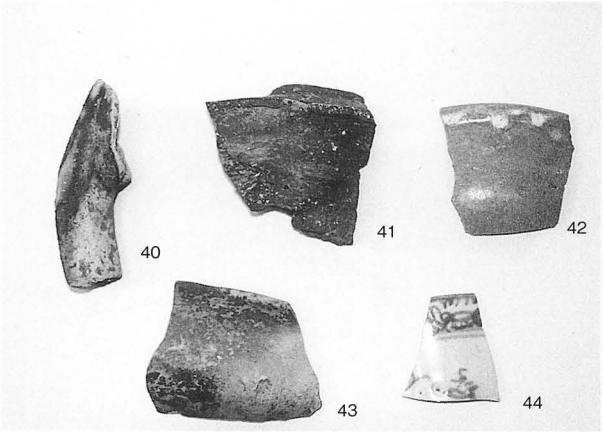




36


37
39


38


40
41
42
43
44

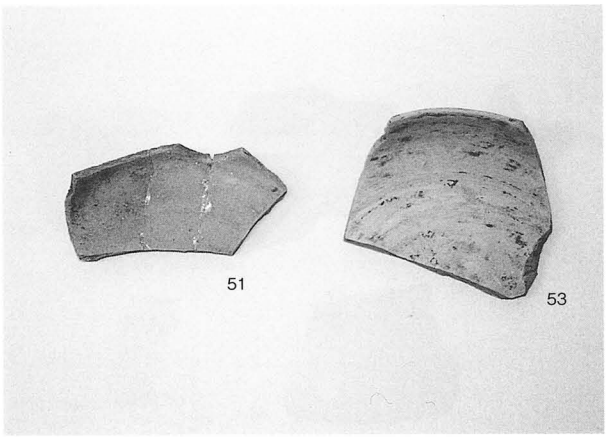
45

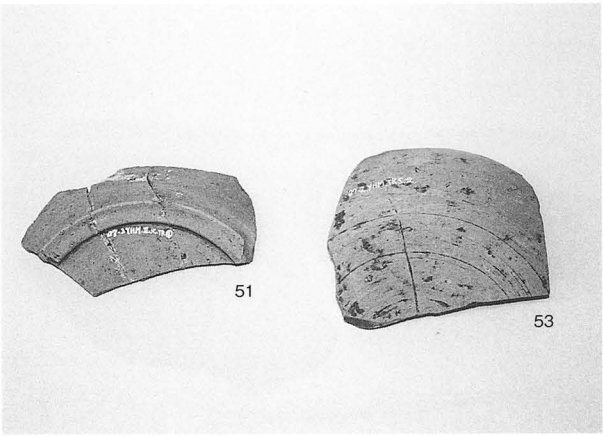
46

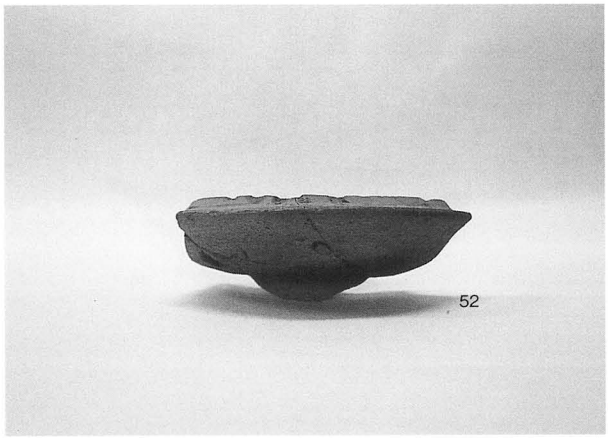
47

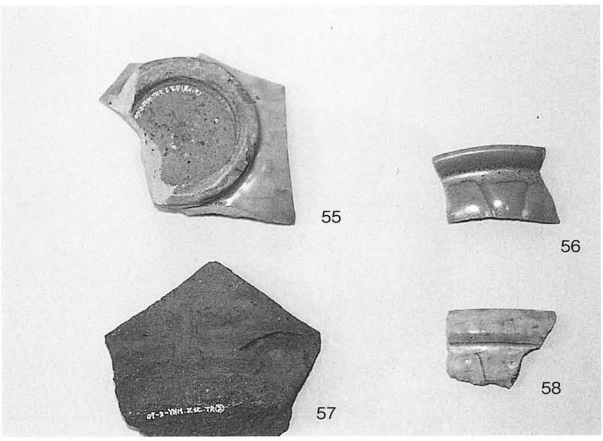
48

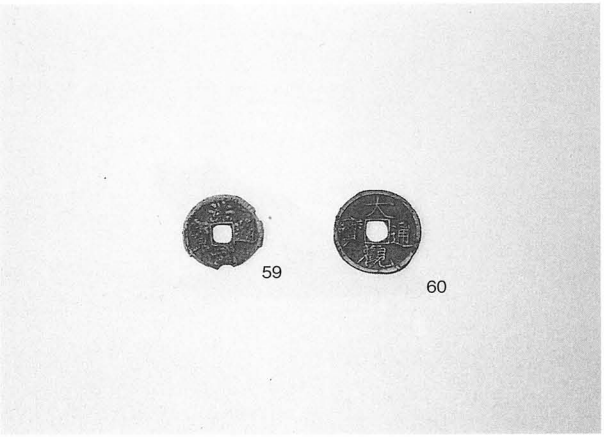
PL 11

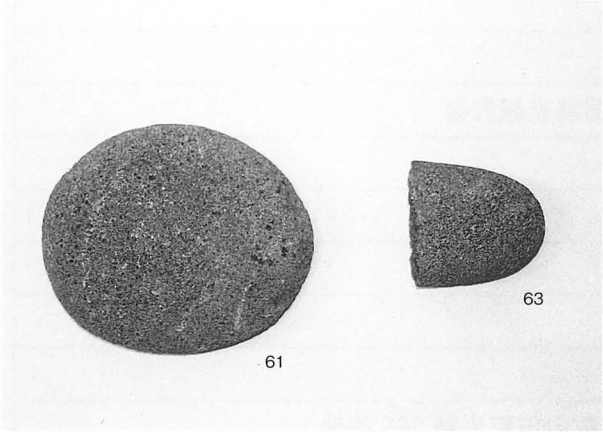




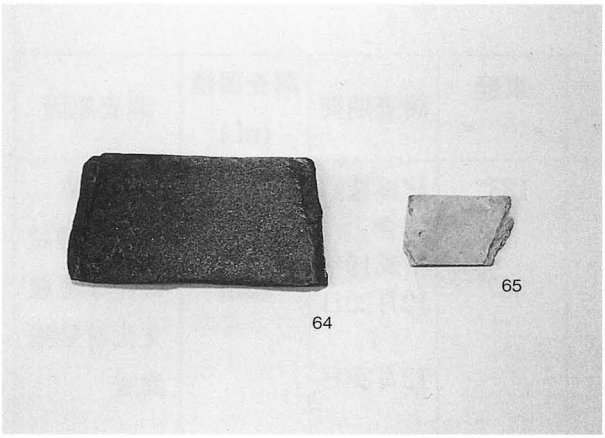


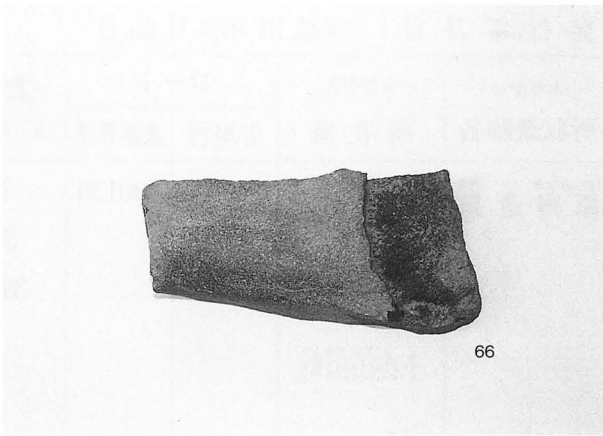


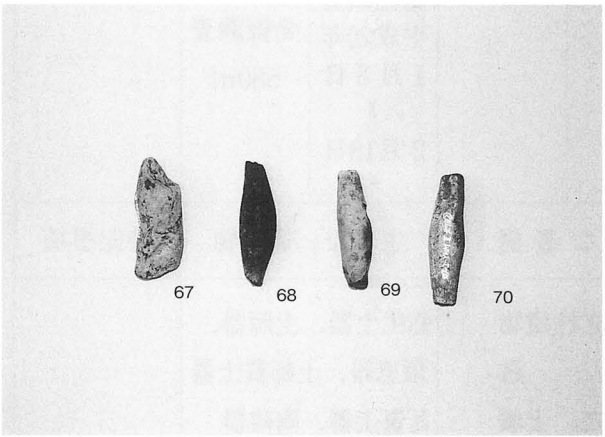


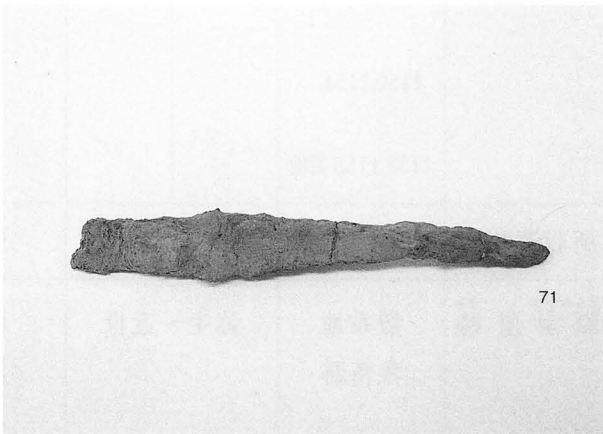

61
63

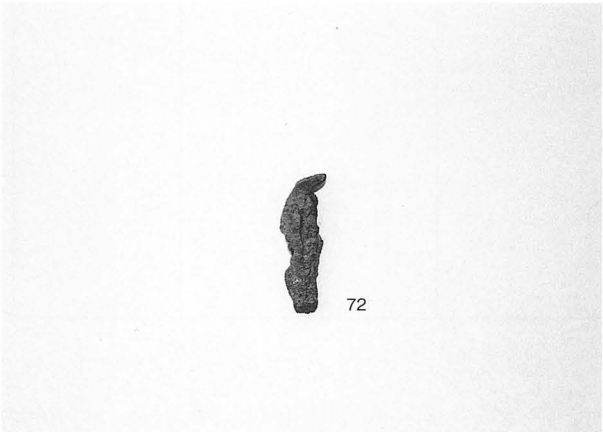
62

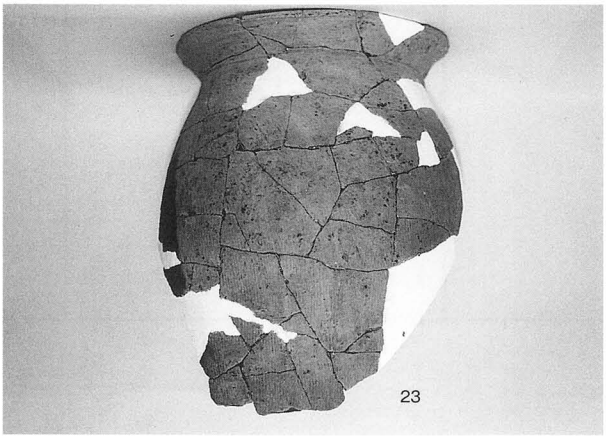

64
65


66


67
68
69
70


71


72


23

ふ り が な	はらみなみ い せき
書 名	原 南 遺 跡
副 書 名	保育園建設に伴う原南遺跡発掘調査報告書
巻 次	1
シ リ ー ズ 名	香美市文化財調査報告書
シリーズ番号	第2集
編 著 者 名	小林麻由
編 集 機 関	高知県　香美市教育委員会
所 在 地	〒782－0017　高知県香美市土佐山田町岩積365番地1
発 行 年 月 日	平成21年3月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
はらみなみ い せき 原南遺跡	こうちけん 高知県 かみし 香美市 とさやまだちょう 土佐山田町 あか 赤シサイ 1150,1151, 1152,1153番地	393231	190136	33° 35' 399"	133° 41' 367"	試掘確認調査 平成19年12月20日 ～ 12月28日 発掘調査 平成20年1月8日 ～ 2月18日	試掘確認調査 72㎡ 発掘調査 580㎡	香美市立保育園建設に伴う埋蔵文化財発掘調査

所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特記事項
はらみなみ い せき 原南遺跡	散布地 集落跡	弥生～近世	掘立柱建物 溝 跡 柱穴、土壙	弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器 瓦質土器、陶磁器	

香美市文化財調査報告書第２集

原南遺跡

－市立保育園建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

平成 21 年 3 月 25 日

発行　高知県香美市教育委員会
〒 782 － 0017
高知県香美市土佐山田町岩積 365 － 1
印刷　川北印刷株式会社